

# 太古の夢を追う

## 南国市

蒲原山東一古墳は、高知医大の敷地造成中に発見された古墳で、丘陵上には二基あります。そのうち一古墳は、ほぼ完全な形で横穴式石室が発見されました。須恵器、土師器、そして工具としては鉄鋤先、鉄斧、鉄鎌、鉈(やり)が、それに武器、装身具、馬具と人骨片が確認されました。県内のような多湿の気候条件のなかで、人骨片をふくめ鉄器に装着した木など保存状態が非常によかつた点は、本古墳の地質的条件にもよりますけれど、県内では珍しいことです。これは、四人の埋葬とみられる家族墓で、石室の築造技

### 四人を埋葬の家族墓

下段は長径二十八、短径二十二で、内部は横穴式石室になっています。この古墳は丘陵上に二基造営され、蓋覆されていました。昭和四十六年に調査した時には、中空金銅玉、飾馬具、それに手工業工具の鉈(やり)が、同時に副葬品に副葬されていました。土佐の後期古墳で、飾馬具と手工業工具が同時に副葬される古墳は特別なものです。小蓮古墳は土佐の古墳盛期に先がけて、強力な支配体制を築きあげた首長の墳墓的性格をもつものです。



術やその手法と副葬品によって、土佐では横穴式石室が造築されはじめた初期の古墳とみられています。そして、その時期は六世紀中葉を下らないものです。

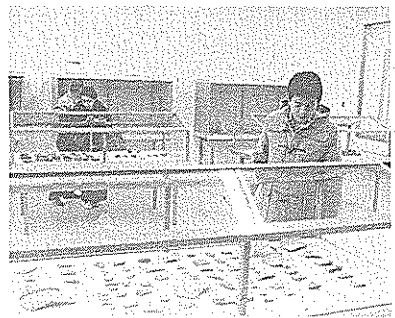
**古代の上に 中世の民家遺構が**

去る二月一日から始まった国庁跡の発掘調査では、県下では初めてといわれている中世の民家の遺構が発見されました。民家の遺構は、間口約五・五、奥行約三・六で、鎌倉末期から南北朝時代のものだと考えられます。また、出土品の中に奈良時代後期から平安時代に焼かれたらしい緑釉陶器の破

片が出てきており、上流社会で使われたと思われる緑釉陶器は初めて出土でもあります。そして今回の発掘によると、古代の遺跡の上に中世の集落の遺構がある可能性もある、と予測されます。

二月四日の国分寺境内の発掘では、これまた県下で初めての弥生中期の食糧を蓄える二基の貯蔵穴が発見されました。このうちの二基は縦百三十センチ、横八十センチ、深さ五十五センチもあり、その底部に丸柱穴がありました。これからは、高床式以前の貯蔵穴の模様がしのばれ、国分寺境内に弥生中期の住居跡があることが確認されました。国分寺付近は、大古から居住に適していたと予想されます。

### 遺跡展も開催

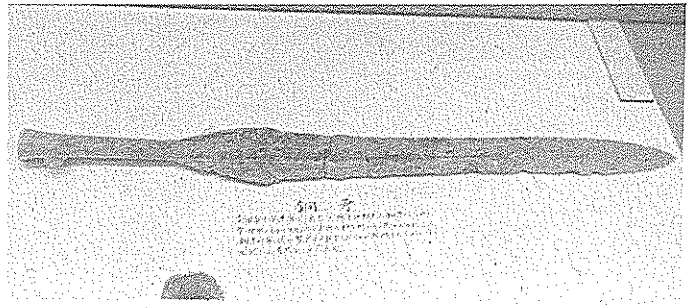


高知市の県立図書館では、一月二十日から二月十二日まで、西見当遺跡の発掘を中心に「一回南国市考古遺跡展」が開催されました。会場を訪れた市民は「県下にはほとんど目立った遺跡がないと思っていたが、この様な多くの貴重な遺跡があることを知り驚いている。特に、銅矛や銅鐸の舌などを見るのは初めてで非常にうれしい。目頃、南国市付近を通るのだが、あれはひよつとすると後期古墳ではないか、と思いつつ調べる機会がなかったのだが、参考地図により多少なりとも見当がついた。」と感激して、考古遺跡展の感想を述べていました。

■写真は、2ページ上「銅矛」、下「国庁跡発掘」、3ページ上「西見当I式土器中・下」考古遺跡展。

# 発掘

## は遺跡の宝庫



昨年二月に実施した田村西見当遺跡や、それ以前の発掘である十市運倉遺跡、それに岡豊小蓮古墳(県史跡指定)や岡豊蒲原山古墳など、また最近では国庁跡発掘や国分寺境内発掘など、南国市内では「太古の夢を追う発掘」が行われています。

出土品では、西見当B・C区出

### 新発見の西見当I式土器

西見当遺跡は昭和三十年代に一度発掘されたことがありますが、昨年の発掘地点は前回の発掘地点とは異なっています。今回の発掘では弥生前期(約二千二百年前)に築かれた周溝の一部が発見され、その周溝にとりかこまれた遺構として、工房として小堅穴、さらに機械用の小ビット、三個の食料貯蔵用の貯蔵穴が見つかっています。このうち工房は弥生前期中葉の西見当II式土器を使用した時期のもので、他の遺構は今回の発掘で新たに発見された弥生式前期前半の西見当I式土器を使用した時期のもので、

西見当I式土器は、今のところ南四国中央部から東部にかけての最古の弥生土器で、一部にまだ晩

土の銅鐸の舌や新発見の西見当I式土器と呼ばれる前期弥生土器、十市運倉遺跡からは銅矛が、また小蓮古墳と蒲原山古墳のものは先進地域のもので土佐の考古学に大きな問題を投げかけるものです。南国市は貴重な遺跡の宝庫であるといえましょう。

期縄文土器の名残が見え、それに伴う石器特に稲の穂をつむ石庖丁や石斧が打製であることが縄文の名残りでしょう。また、貯蔵穴の中から炭化米が出土したことも、この地方がいよいよ南四国でも最も早い時期に稲作を行った証となりましょう。

銅鐸の音を出す舌は、周溝の上部から出土していることが今回の発掘で判明しましたので、少くともそれが土の中に埋没した弥生中期(約二千二百年前)でしょう。

そして、周溝の末端部で弥生中期の湧水地点と思われるところに埋っていたところから、あるいはこの銅鐸の舌は湧水地の水霊を祭ったとも考えられます。

### 山イモ掘って銅矛が

十市運倉の銅矛は、山イモを掘



っていた人が偶然発見したもので、銅矛をどのような埋納穴にどのように埋めていたかが判明したのは、金田でこれが初めてのものと言えましょう。その点で、運倉の銅矛埋納遺跡は全国的で重要なです。前述の西見当出土の銅鐸の舌は全国に四例しかないものの一つであることも、充分承知していただきたいと思います。

### 中空金銅玉や飾馬具、鉈が副葬

県内に存在する後期古墳では最大規模のもので、小蓮古墳は岡豊山の近くにあり、昭和三年に高知県指定文化財になっています。その頃から古墳は開口していましたが、古墳は一段の楕円形の円墳で、